

会 議 要 旨 書

会議名	令和7年度第2回三鷹市文化財保護審議会定例会
日時	令和7年7月14日(月)午後6時30分～8時30分
場所	三鷹市教育センター2階 第二中研修室
出席委員 (7人)	中野達哉、濱野周泰、小林謙一、福野明子、神野善治、M・ウィリアム スティール、 日高慎
欠席委員 (1人)	初田香成
行政職員 (8人)	スポーツと文化部長 大朝摂子、スポーツと文化部調整担当部長 平山寛、 生涯学習課長 八木隆、同係長 森宏樹、同主査 下原裕司、 同主任 早坂仁敬、齊藤満里奈、同主事 中峰結
会 議 の 公 開・非公開	公開
傍聴人数	1人
1 開会 事務局より、「三鷹市市民会議、審議会等の会議の公開に関する条例」に基づき会議の公開、会議録の作成、公開についての説明及び配付資料の確認を行った。 2 事業報告と計画について 事務局より、令和7年度5月以降の事業報告と今後の計画について説明を行った。 【A委員】古民家での縄文植栽について、具体的にどんな植物を植えているのか、また、発掘体験についても詳細を伺いたい。 【事務局】最近、日本の縄文時代に栽培化の起源があることが発表されたアズキの原種であるアブツルアズキ、縄文中期に栽培サイズのものであったといわれるダイズの前原種であるツルマメ、山芋、ゼンマイなどを植えている。ここ2年ほど縄文食講座を行っているが、栽培がうまくいけば、ここで育てたものを講座で活用したいと考えている。 発掘体験については、長野県川上村までご自身の車で来ていただき、宿泊費も負担していただいて、大深山遺跡の発掘を体験してもらう。家族でも個人でも参加可能である。 【B委員】縄文植栽について、現在の大豆と縄文時代の大豆の遺伝子は異なるのではないだろうか。 【事務局】現在生えている野生種を栽培化するという発想である。野生種が入手できないものは、原種に近いものを植えているので、厳密に言うと違いはあるだろう。 【C委員】三鷹大沢わさびブレインストーミングセッションは1回のみなのか。 【事務局】10月の水車・古民家まつりで三鷹大沢わさびをお披露目したいと考えており、そのためにボランティアを中心にわさびの活用や展開について検討を進めている。月に1度のペースで開催予定である。 【D委員】解説員から水車で事業が少ないという意見がある。解説員は高齢化しており、若い方に参加してもらうためにはやはり市の力が必要だと思うので、水車で講座などを検討していただければと思う。 また、三鷹の生活基盤は麦だったので、三鷹の食生活を支えた麦について取り上げるのもよい	

のではないか。

【大朝部長】大沢ではないが北野を拠点として活動している農業団体が市内で麦を栽培し、棒うち体験も実施し、昔は麦を多く食べていたということを伝える活動を行っている。

3 三鷹市史編さん事業について

事務局より、三鷹市史編さん事業について説明を行った。

【B委員】市史編さんの終了目途はいつ頃になるのか。

【大朝部長】今年度から開始し、概ね10年かかると想定しており、市政施行80周年に合わせて最初のコンテンツ公開を行う予定である。

【B委員】デジタルアーカイブ上で公開が主体というのは、あまり例がないのではないか。

【大朝部長】デジタルのみでよいのか、紙媒体も必要なのではないかと等について検討中である。インターネット上で情報が調べられるというのはとても重要だと考えており、市史をデジタル主体で公開するという他市の事例はないが、ニーズを見極めて整理していきたい。

【E委員】三鷹らしい市史とはどういったことを想定されているのか伺いたい。

【事務局】トピックとしてどういう調査項目を考えていくかというときに、多摩全般の地域史とならないよう、三鷹の特徴を表せるような項目を考えたい。地形的な特徴、考古学の発掘成果等、現在の三鷹が持っている文化遺産を、特に重点的に調査をすることで、三鷹らしさが出るのではないかとこのように現時点では考えている。

【B委員】市史を作成し、公開するだけでなく、市史で収集した資料をどう保存していくかについても整理してほしい。

また、公文書についてもきちんと保存していく体制を整えるべきだと思っている。

【大朝部長】市史を作り上げるために収集した資料が失われずに形として残すことは重要だと考えている。残すための手段として、事務局内で検討した結果、デジタルがよいのではという話になってはいるが、今回デジタルアーカイブスの手法等を検討する部会を設けているので、委員の方の意見を伺いながら最適な方法を検討していきたい。公文書についても引き続き事務局で検討を進めていく。

【A委員】編集会議で資料収集作業に入る前に、デジタルなのか、紙なのかの方向性は固めておかないと、現場が混乱するだろう。各部会長が市史編さん委員会にも入るのがよいのではないか。

【大朝部長】部会長の方が市史編さん委員会を兼ねていただく場合もあるだろう。また、アドバイザーを設置予定である。

【A委員】アドバイザーの方も市史編さん委員会に入ってもらったほうがよいだろう。

【D委員】通史編1冊の中で5分野に分けると、各分野でのページが少なくなる。限られた割当で、それぞれの三鷹らしさが十分に出せるのか不安に思う。

【大朝部長】紙資料をどうするかについてはまだ検討中のため、市史編さん委員会では様々なアドバイスをいただきたいと考えている。

【A委員】市史に掲載されない、ネタのような状態の情報を記録することも大事であり、それらを市民に見てほしいという気持ちがあるので、市史研究を出してほしい。

【F委員】通常、通史編を作成するにあたり、各部の基礎資料を蓄積した資料編をもとにしてはいるが、そういったものがないなかで、通史編が作成できるのか疑問に思う。

【事務局】資料の蓄積は当然行い、公開もするが、ただデジタルにして公開するのではなく市民や学校の教材として利用しやすい媒体での公開を目指そうとしている。その方法について

我々も検討しているところである。

【大朝部長】資料編については、出版するかどうかは別として、まとめるというのは事実である。市史編さんにおいてのプロセスを簡易的にしようとしているわけではなく、きちんと調査と記録を行ったうえで、より市民に身近に感じてもらえる媒体で公開していきたいと考えている。

【F委員】市史編さん事業として、例えば発掘調査を実施できるのかなど、そういった話はどこで話し合われるのだろうか。

【B委員】部会で話を出して、市史編さん委員会にあげていくのではないかな。

【A委員】職員体制や空間的な場所はどうか。

【大朝部長】市史編さん担当は現在 1.5 人であるが、ゆくゆくは拡充したいと思っている。また、作業場所においても、確保にむけて検討を進めているところである。

4 三鷹まるごと博物館条例（仮称）について

事務局より、三鷹まるごと博物館条例（仮称）について説明を行った。

【C委員】以前に、登録博物館の可能性があるという話を伺ったが、その後どうなっているのか。

【大朝部長】来年度以降の登録を目指して、現在東京都と確認しながら進めているので、目途が立ってきたら改めてご報告させていただく。

5 その他

事務局より、爆弾穴調査について説明を行った。

【B委員】それでは、次回定例会は令和 7 年 10 月 20 日（月）午後 6 時半からとする。以上をもって、令和 7 年度第 2 回三鷹市文化財保護審議会定例会を終了する。